

平成28年度

# 研究紀要

学校教育目標

豊かな心を持ち、一人ひとりの児童が主役となれる学校

## 研究主題

「主体的に読む力を育てる国語科教育  
～言語活動の充実を通して～」



佐倉市立志津小学校

# 仮説の検証

**仮説1 適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つきたい力」を身に付けさせることができるだろう。**

手立て～全校での取り組み～ ①適切な言語活動の精選 ②読解プリントへの取り組み  
③詩や俳句の音読

## 第3学年「めだか」(説明文)

- 読み取った内容と合わせて自分の思いなどをワークシートに書き、本の形式にまとめるようにした。  
→毎時間学習した内容を積み重ね、わかりやすくまとめることができた。
- 要点をわかりやすく伝えるために、発表の方法を自分たちで工夫するようにした。(ペープサート、クイズなど)  
→相手に伝えるために要点を整理し、自分の考えを交えて発表することができた。

中心となる言語活動：要点を「めだかのひみつ」として1年生に発表

## 第4学年「花を見つける手がかり」(説明文)

- 教材文の読みの視点を①実験のねらい②実験の準備・方法③実験の結果④実験の結論⑤次に実験すべきことの5つに設定し、ワークシートを使い、読み取りをさせた。  
→説明文の構成に慣れ、筋道をたどりながら読むことができた。
- 同じシリーズの本を一人一冊用意し、「生き物ひみつ発見リーフレット」を作成した。  
→児童が興味をもちやすく、読書の幅が広がった。また、一人一人気に入った作品ができ、自信をもって紹介できた。

中心となる言語活動：科学読み物を選び、「生き物ひみつ発見リーフレット」を作成

## 第6学年「きつねの窓」(物語文)

- 1つの作品を視点読みさせたり、複数の作品を1つの視点で重ね読みさせたりした。  
→いろいろな読み方で多読させることで、多様な読みができるようになった。
- 学級ごとに異なる単元計画で検証した。  
→ビブリオバトルが目標であれば、教材文を通読した後に自分で選んだ本の読解に入るのがよい。読解力の向上が目標であれば、ABワンセット方式での視点読みは効果的であった。

中心となる言語活動：選んだ作品の魅力を紹介する「ビブリオバトル」

**仮説2 目的意識をもって取り組めば、読みのめあてが明確になり、進んで読むことができるだろう。**

**手立て～全校での取り組み～ ①単元のゴールを意識させる ②朝読書の充実  
③読書記録をつけて、足跡を残す ④並行読書 ⑤学校図書館司書の活用**

### **第1学年「天にのぼったおけやさん」(物語文)**

- 自分の選んだ「むかしばなし」の好きな場面を、一枚紙芝居に表して音読で友達に伝えるという活動を設定した。
- 活動内容を事前に知ったことで、単元を通して相手意識と目的意識をもって読むことができた。
- 同じ昔話を読んでいる友達と音読を聞き合い、紙芝居を発表するときに助け合うことができるようにした。
- 友達の音読を聞いて、よかったところを簡単なメモで知らせ合ったので、意欲をもって音読に取り組むことができた。

中心となる言語活動：「一枚紙芝居」の作成

### **第2学年「かさこじぞう」(物語文)**

- 「かさこじぞう」の好きな場面を音読発表する活動を設定した。
- 音読発表会を行うということを、初めに伝えることで友達と協力しながら、意欲的に学習を進められた。
- 「かさこじぞう」の学習をしながら、昔話の並行読書を行った。選んだ話を1年生に聞いてもらう活動を設定した。
- 1年生に読み聞かせることを目標にすることで、「かさこじぞう」での経験を生かそうとする様子が見られた。

中心となる言語活動：音読発表会～昔話に親しもう～

### **第5学年「世界遺産 白神山地からの提言」(説明文)**

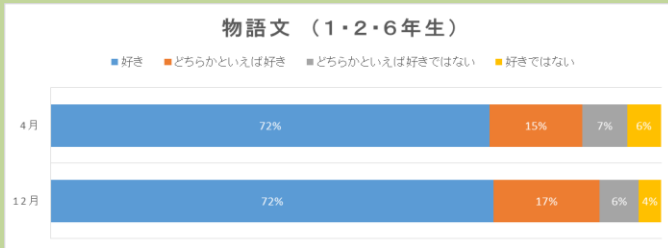
- 白神山地にある施設に意見文を送る活動を設定した。
- 施設を訪れた登山者に意見文を読んでもらうという相手意識と目的意識をもったことで、読みのめあてを明確にすることができた。
- 意見文を作成するために、自然を守る方法を探る活動を取り入れた。
- 本を中心に新聞記事などから、意見文の根拠となる自然を守るための方法を意欲的に読み進めることができた。

中心となる言語活動：意見文「初耳!? 知って守ろう白神山地」の作成

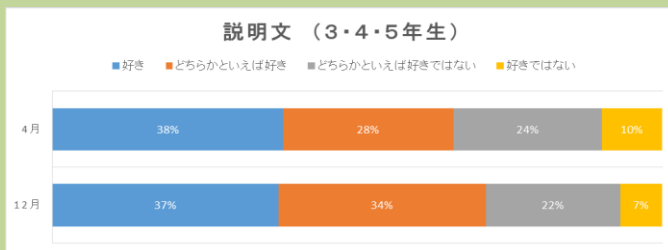
# 成果と課題

## アンケート結果と考察

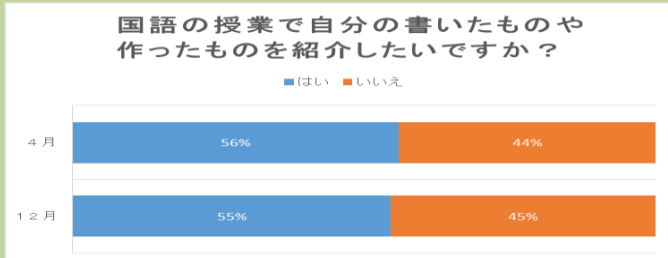
### 1 物語文は好きですか。



### 2 説明文は好きですか。



### 3 国語の授業で自分の書いたものや作ったものを紹介したいですか。



#### 《仮説1》

- ・友達との活動を通し、物語を深く読むことができたのではないかと考える。「好きではない」と答えた児童が減っている。

#### 《仮説2》

- ・昨年度から説明文について取り組みを始めたので、効果が出てきたと考えられる。「どちらかといえば…」と答えた児童が「好き」になりつつある。
- ・研究授業の中でも、それぞれ良い成果が出ているにもかかわらず、自信がない様子がうかがえる。発表や紹介について、低学年のうちから経験を積み、慣れていくことが大切と考える。

## 成 果

#### 《仮説1》

- ・「つきたい力」に合った言語活動を設定したことで、要点や考えを意欲的に読み取り、まとめていくことができた。
- ・言語活動をABワンセット方式にすることで、同じ観点で自分の選んだ本を読み進めることができ、読みを深めたり広げたりすることができた。

#### 《仮説2》

- ・目的意識や相手意識をもたせたことで、意欲的に言語活動に取り組むことができた。
- ・資料や教科書の読み込みをしたり、意見交換したりすることによって、自分の考えに自信がもてるようになり、自分の意見を上手にまとめることができた。

## 課 題

#### 《仮説1》

- ・並行読書をする際の本の選定と確保が難しかった。時間の余裕がもてず、読書活動に意欲がもてない児童には苦しい単元となってしまった。
- ・「つきたい力」を見定めきれず、言語活動の設定が曖昧になってしまった。

#### 《仮説2》

- ・言語活動を一人一人の到達度に応じて丁寧に行うことができなかった。
- ・教科書や資料の読み込みには個人差があり、根拠となる資料が見つからなかったり、明確にできなかつたりする児童の手立てをきちんと考える必要があった。